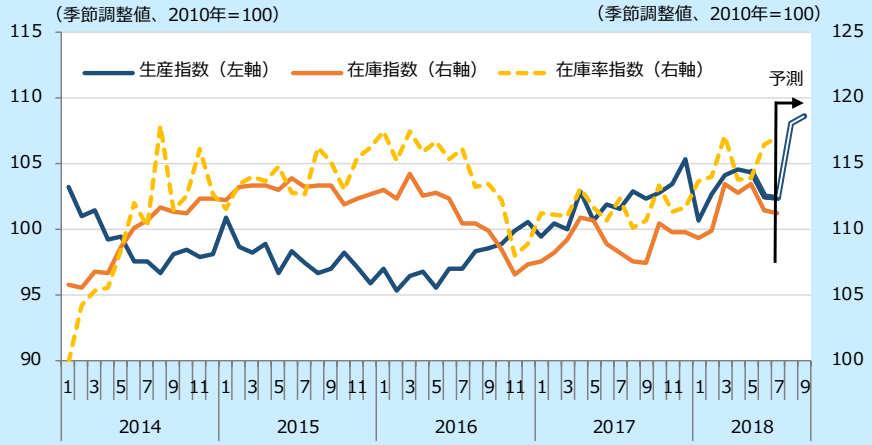
日本：鉱工業生産指数（2018年7月）
―生産は緩やかな回復基調は維持―

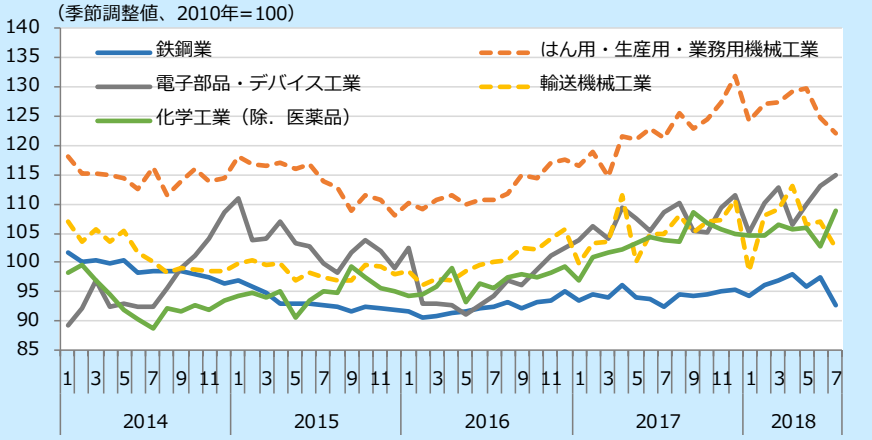
MRI Daily Economic Points
September 3, 2018

鉱工業生産 / 在庫指数



出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

変動への寄与が大きい業種の生産指数



出所：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

今回の結果

- 7月の鉱工業生産指数（速報）は季調済前月比▲0.1%と3ヶ月連続で低下。
- 業種別にみると、15業種のうち8業種が前月比で低下した。鉄鋼業（前月比▲5.0%）や輸送機械工業（同▲4.2%）、はん用・生産用・業務用機械工業（同▲2.1%）で低下幅が大きく、全体を押し下げた。輸送機械工業では、2018年半ば以降の米国向けの輸送用機器輸出の減少が、生産の抑制要因となったとみられる。また、上記の3業種は、中国地方に生産拠点が比較的多く、西日本豪雨の生産への悪影響を受けた可能性がある。
- 一方、7業種が上昇した。化学工業（除く医薬品）（同+5.9%）のほか、半導体関連を中心に電子部品・デバイス工業（同+1.8%）も上昇が続いた。
- 在庫指数は前月比▲0.2%と2カ月連続で低下した。ただし、業種別に見ると、電子部品・デバイス工業や化学工業（除く医薬品）などでは、2018年以降、在庫指数や在庫率指数の上昇傾向が続いている。在庫が積み上がりつつあり、今後、在庫調整が生産抑制要因となることも考えられる。
- 製造工業生産予測調査によると、8月の生産は前月比+5.6%と大幅な増加が見込まれている。経済産業省の補正値は同+1.2%程度であり、下振れる可能性が高いが、西日本豪雨によって7月の生産が抑制された分の反動増も予想されるため、8月の生産は4ヶ月ぶりに増加に転じるだろう。

基調判断と今後の流れ

- 生産は回復基調を維持しているが、2018年以降は輸出の伸びの減速もあり、回復ペースは鈍化している。先行きは、今後数ヶ月は在庫調整により横ばい圏内での推移が続くものの、国内では所得環境の改善による内需回復は続くとみられることから、回復基調が途切れるには至らないであろう。
- ただし、①半導体関連需要の調整、②米国の保護主義化に端を発する世界貿易・経済の下振れ、③トランプ政権が検討する自動車の関税引き上げ、④日米貿易協議（FFR）の行方、などリスク要因には注視する必要がある。

Copyright (c) Mitsubishi Research Institute, Inc.

担当：政策・経済研究センター　田中康就　TEL 03-6705-6087